

私 の 活 動 状 況

本 城 秀 次

1989年4月に医学部精神医学教室から教育学部教育心理学教室に移ってきました。医学部では児童青年期の精神科臨床、とりわけ登校拒否、家庭内暴力、強迫神経症などの治療研究に取り組んで来ました。教育学部においても研究的にはこれまでと同様の臨床的研究を継続して行く所存ですが、このような研究活動にも増して今後は、学生諸氏の臨床教育に力を注いで行くことが私に課せられた使命ではないかと考えています。

学会活動は日本児童青年精神医学会を中心に活動してきました。1988年の研究業績は以下の通りです。

論 文

- (1) Honjo, S. and Wakabayashi, S. : Family violence in Japan—A compilation of data from the Department of Psychiatry, Nagoya University Hospital—. The Japanese Journal of Psychiatry and Neurology, 42 ; 5 -10, 1988.
- (2) 若林慎一郎、藤川明彦、江口 研、水谷秀子、岡田亨子、井上真人、杉田憲夫、本城秀次：心理的・社会的因素の関与した児童・思春期病態についての疫学的研究——（その1）精神科外来における児童青年期患

者の実態、児童・思春期精神障害の成因及び治療に関する研究、昭和62年度研究報告書、9-18, 1988.

- (3) 本城秀次：子供の強迫症状、精神科治療学、3；697-705, 1988.
 - (4) 本城秀次：家庭内暴力を伴う登校拒否児における「いじめられ」体験について、児童青年精神医学とその近接領域、29；127-135, 1988.
 - (5) 本城秀次、金子寿子、猪子香代他：愛知県における児童青年精神科医療の現状——名古屋大学精神科を中心として——、児童青年精神医学とその近接領域、29；245-254, 1988.
 - (6) 本城秀次、阿部徳一郎、小出照子他：発熱後意識障害、精神症状を呈し、脳炎との鑑別が必要であった思春期2症例について——器質力動論の視点から——、小児の精神と神経、28；295-303, 1988.
- 学会発表
- (1) 本城秀次、金子寿子、村瀬聰美他：若年発症のAnorexia Nervosa および近縁症例について、第29回日本児童青年精神医学会総会、1988.